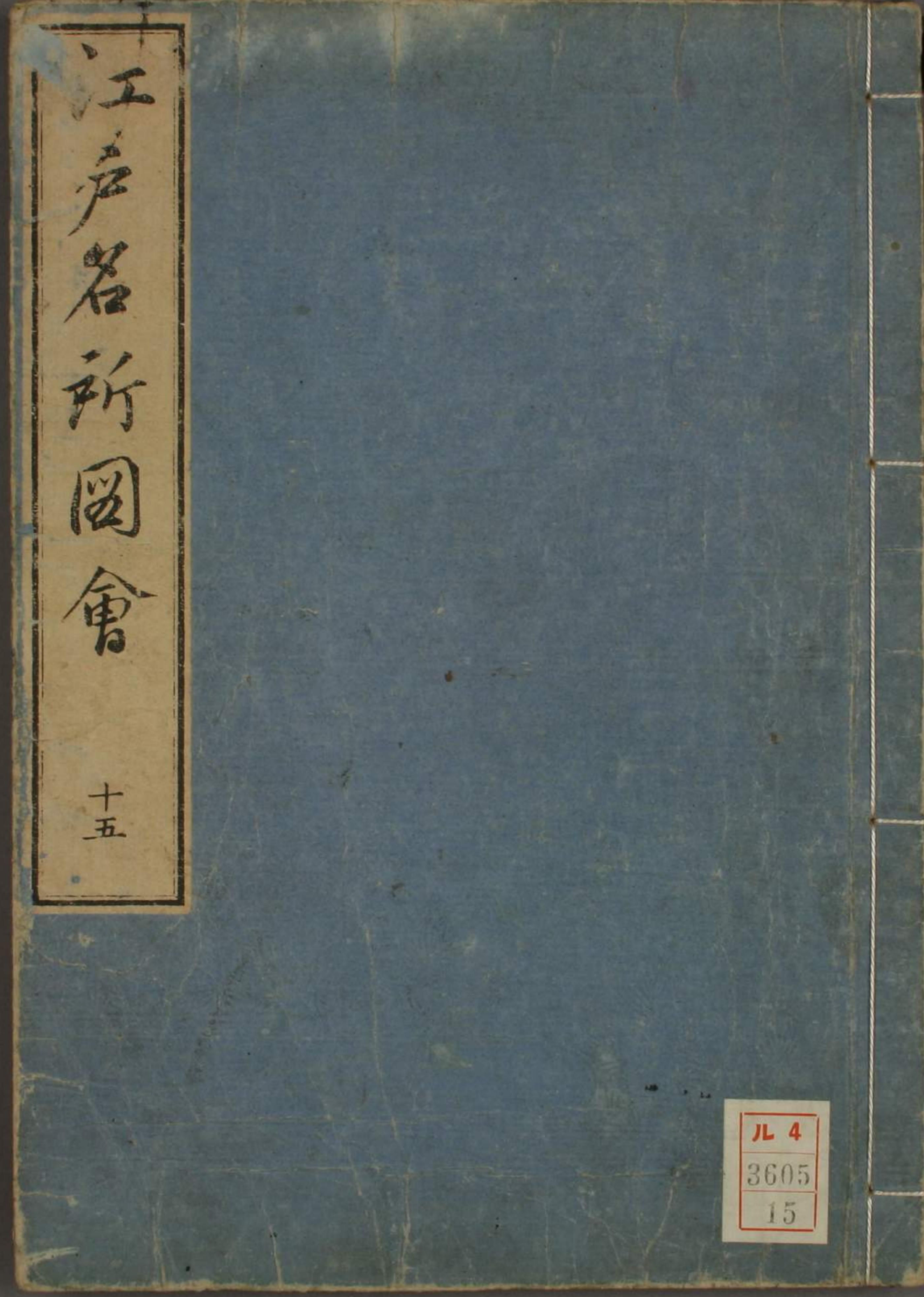






根津權現社

上野より五町をうりて隣て乾の方よりあり

志賀文庫

祭神 素盞烏尊

伊産土神

相殿

左 山王權現  
右 八幡宮

源家祖神

當社境内始

甲府公

伊館の地あり

根津權現

大樹の文昭

伊産土神

伊宮系近あり

故後より右の伊館

の地成賜り

宝永年中

新當社と伊館

ありて結構あり

隨身

は掛る根津大權現の額

大明院宮

と辨法親王の

蹟あり

舊地ハ千

駟本坂の上元根津

といふところあり

祭禮ハ隔年

九月廿日あり

觀音堂

本社の左岡山のうへあり

俗陽清水寺の模ありて

觀音堂

當社境内ハ假山泉水等

とかく草木花四季と

逐て絶々實は遊觀

の地あり

殊に門前ハ貸食店簷とありて清人と憩ハハハ

聲同新

普賢山法住寺

谷中三崎あり

淨土宗ありて奉尊

阿弥陀如来を

安置

安置

其山ハ幡隨意院

了願和尚あり

其頃ハ狐の高徳ありて貴

安置

安置

其山ハ幡隨意院

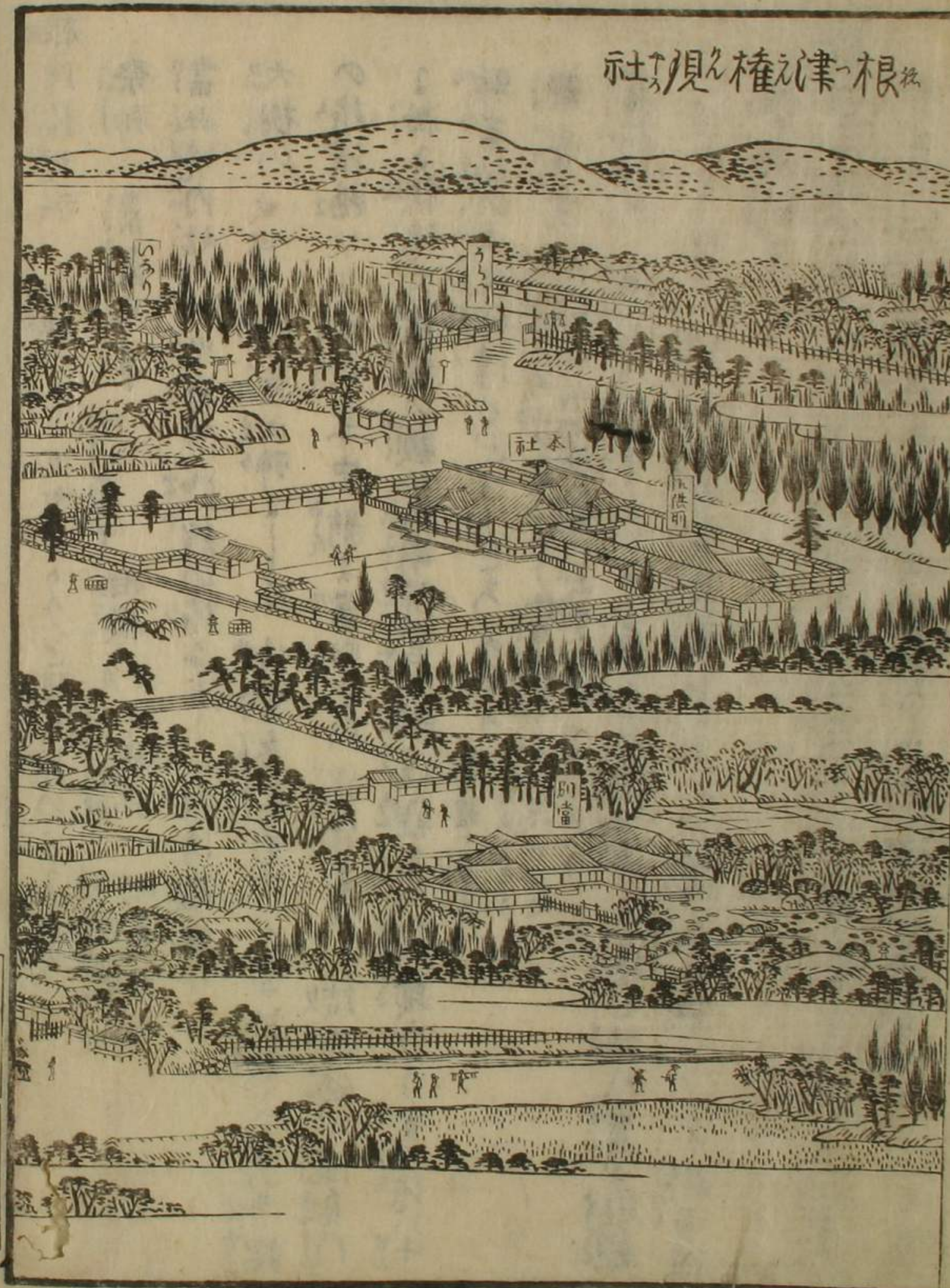
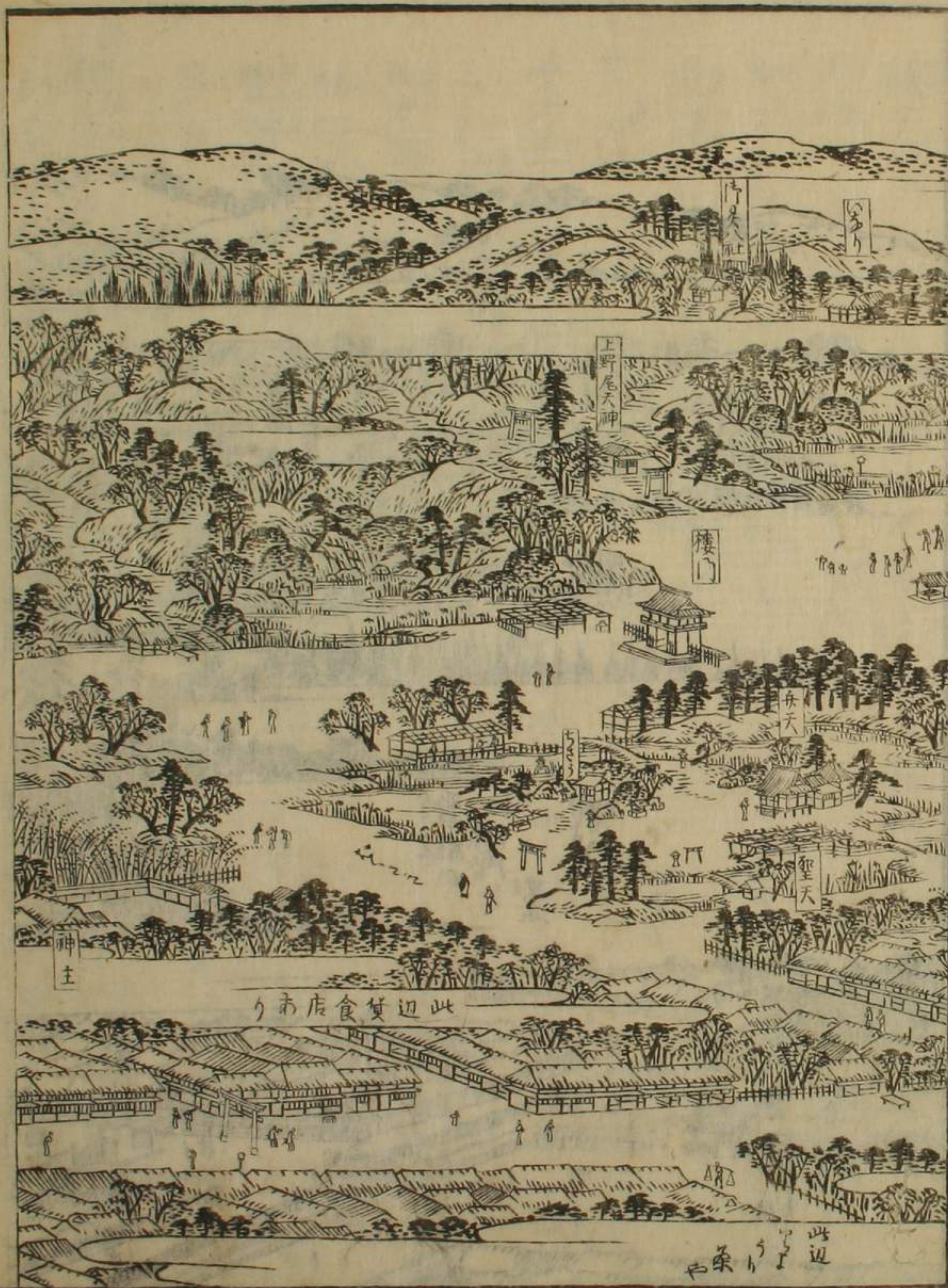
了願和尚あり

其頃ハ狐の高徳ありて貴

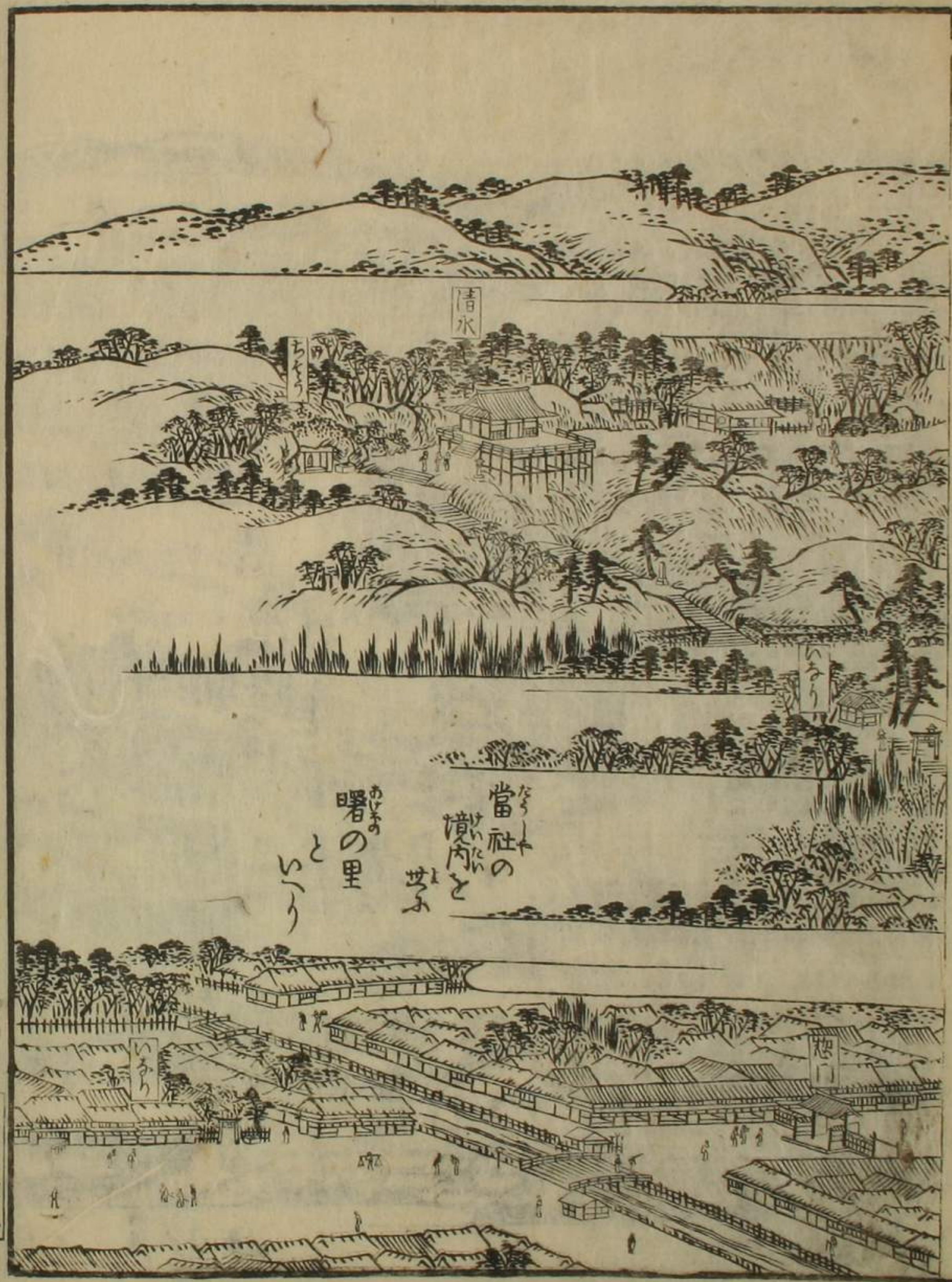
安置

昭和十九年四月五日  
三上富吉  
贈









賤の信仰女が久宝曆年中當寺と草創に其功貴儀男女と擇つて  
 土砂を運搬車一貫毎に十念と授くこゝを以て老若と厭は  
 日々群集し不日成就せり此地は清淨無塵の佛界ありて六時  
 禮讃の聲は玄風と共に寂々なり

日登山妙林寺 法住寺の西小川を隔てあり日蓮宗よりて天文年

中の草創あり元山日秀上人と正徳年中改ありて天台宗に改め

られ後海法印と中興元山とに

田中辨財天社 昔は田の暇道の草堂に安置ありと弘安六年に内海何某始て此社と

顧地蔵尊 感得の靈像あり

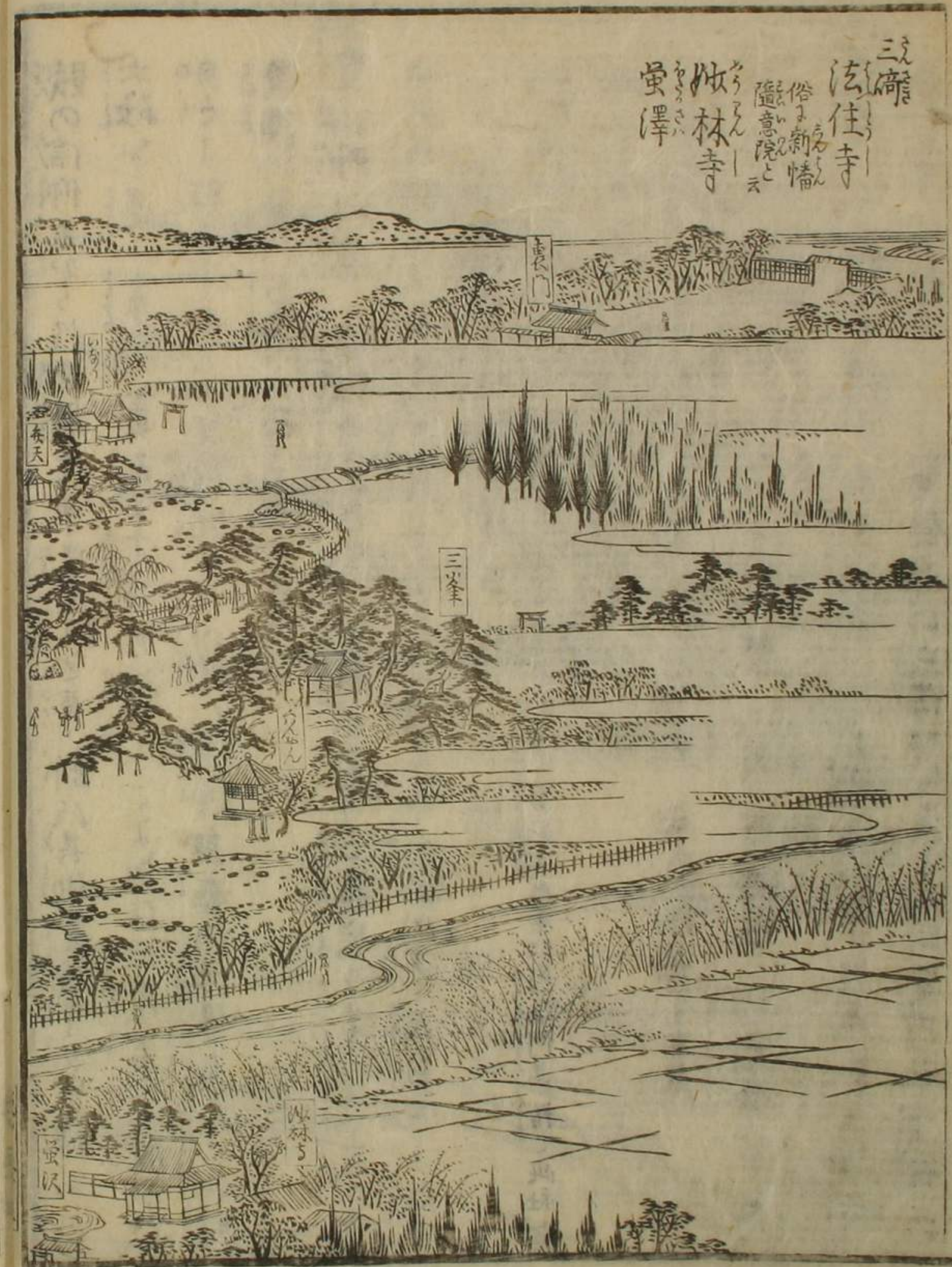
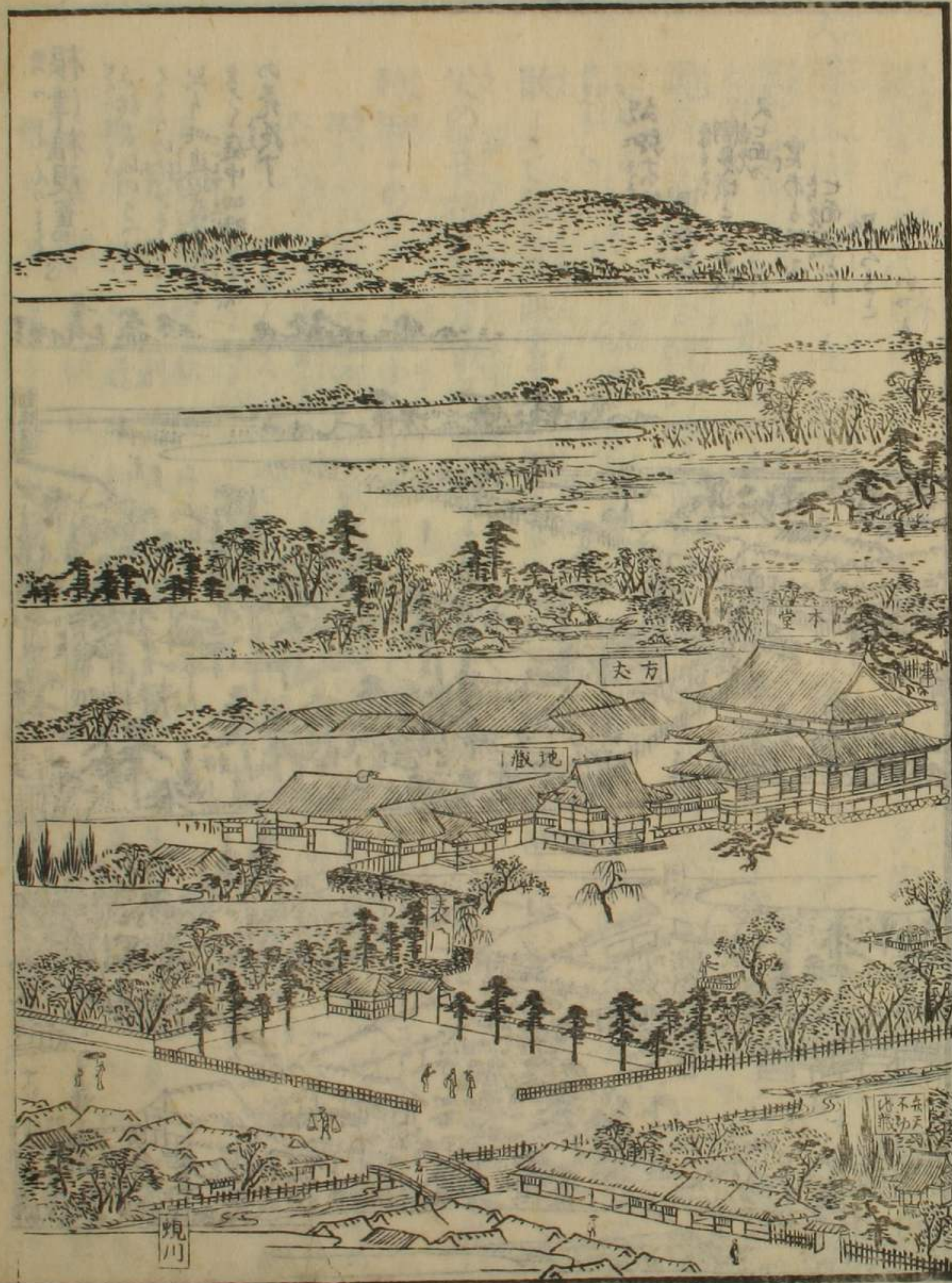
靈驗不動尊 延享三年七月八日法草川より出現せし像あり序長二寸七分

讀曰金刹石堅 神惠佛教 授福與德 靈驗不動

大同二丁亥四月 空海

大觀音 千騎本七軒寺町光源寺といへる浄宗の寺内ありあり和刀に  
 長谷寺の寫しにて十二面觀音の立像あり又同堂内あり千騎の







根津権現舊地

根津権現のうへに  
みづのたもとに  
いり此邊に  
多く庭中四時草木  
の花咲す

観音と女貞  
丸山町あり日蓮宗より  
太田資高の妻と  
草創北条五代記  
永祿七年小糸氏康と里見義弘と  
心院日海禪尼  
と号せり  
又七面  
宮あり  
七面とも  
号ふとも  
いり



大覚山浄心寺

観音と女貞貞享年中江府の高人丸吉兵衛かるり是と建立  
丸山町あり日蓮宗より太田資高の妻と  
草創北条五代記永祿七年小糸氏康と里見義弘と  
心院日海禪尼と号せり  
又七面宮あり七面とも号ふともいり

國府基よて合戦の時資高をのれり妻の親をり  
太田下野守と渡り合戦は資高と里見義弘と  
散りて後妻此奉と聞大は歎き葬禮終るころよいとあき後長吉と  
父の菩提の爲は武只神田に浄心寺と建立はと云  
神田はありと小石川より川を渡りて後復今の地より川を渡り

浄心寺鐘銘並序  
古者論創守文二者之難矣蓋無州創莫成守文  
無守文莫遂草創然者皆難矣武江浄心寺山号  
太覺開基祖曰日成乃以天文十九年創之而九世  
祖曰日真方此之時江府大火因移地於小石川大

浄心寺鐘銘並序  
古者論創守文二者之難矣蓋無州創莫成守文  
無守文莫遂草創然者皆難矣武江浄心寺山号  
太覺開基祖曰日成乃以天文十九年創之而九世  
祖曰日真方此之時江府大火因移地於小石川大



揚再興之新蓋淨因野感未發佛殿方丈及厨庫  
 院而煥乎不礙塵利者我覺王知之土也觀彼久遠猶如  
 此日觀之府內之遠近而城之外之再興新基者我覺王  
 也且以昔今日之開地基易二難相之興今昔不異均是我  
 古之所謂云有門斯創守文而固又難相之興今昔不異均  
 有斯人焉銘有門斯創守文而固又難相之興今昔不異均  
 矣鐘成乞銘有門斯創守文而固又難相之興今昔不異均  
 淨心爲真寺因於斯創守文而固又難相之興今昔不異均  
 以名山與光始已大離覺爲真位固又難相之興今昔不異  
 如常寂與光始已大離覺爲真位固又難相之興今昔不異  
 斯備晚成土器音聲作佛事  
 善武東漸土音聲作佛事  
 不推共醒無明睡  
 弘大法  
 日茂相  
 均是我由今  
 殊之遠時我  
 外一我時我  
 名茂相  
 弘大法  
 日茂相  
 均是我由今

目赤不動堂 駒込溪香町あり伊の赤目山の住職萬行和尚圓の時  
 供奉せし不動の尊像屢靈煥あるは仍て其威靈と恐れ別は今れ  
 像彫刻して彼像と暖籠とす則赤目不動と号し此取は一宇と建  
 立せり 始末は草堂とひすひて安ありと寛永の頃大樹作放翁の  
 のありし後年終は目黒目白と對して目赤と改むとそ  
 旧地あり

駒込  
 大観音





丸山  
浄心寺



諏訪山吉祥寺

同取壹所とうり北の方あり曹洞の禪宗より江戸

檀林の一あり因て満檀林と号し説訪明神の敷地を故に説訪山と号す尊ハ

釋迦如来冥山ハ青巖周陽禪師あり當寺ハ長禄年中カ田持資

江戸様と當一頃かこは井と堀一は土中より吉祥増上の文宇

あふ銅印と得たり依古瑞ありとて一字と建直は吉祥庵と號く

其後北条幕下遠山丹波守中興ハ天正年中所疎

所遺宮の時神田の臺と賜ひ寺領等と附せられ遂に

明暦三年今れ地より三々水道橋ハ當寺神田の臺あり一頃の表ハの地ハ

寺樹と記せり

駒込神明宮 同野二より北の方あり社傳ハ云文治五年右大將

頼朝公奥羽征伐の時霊夢の事あり々其朝此ありは社地と

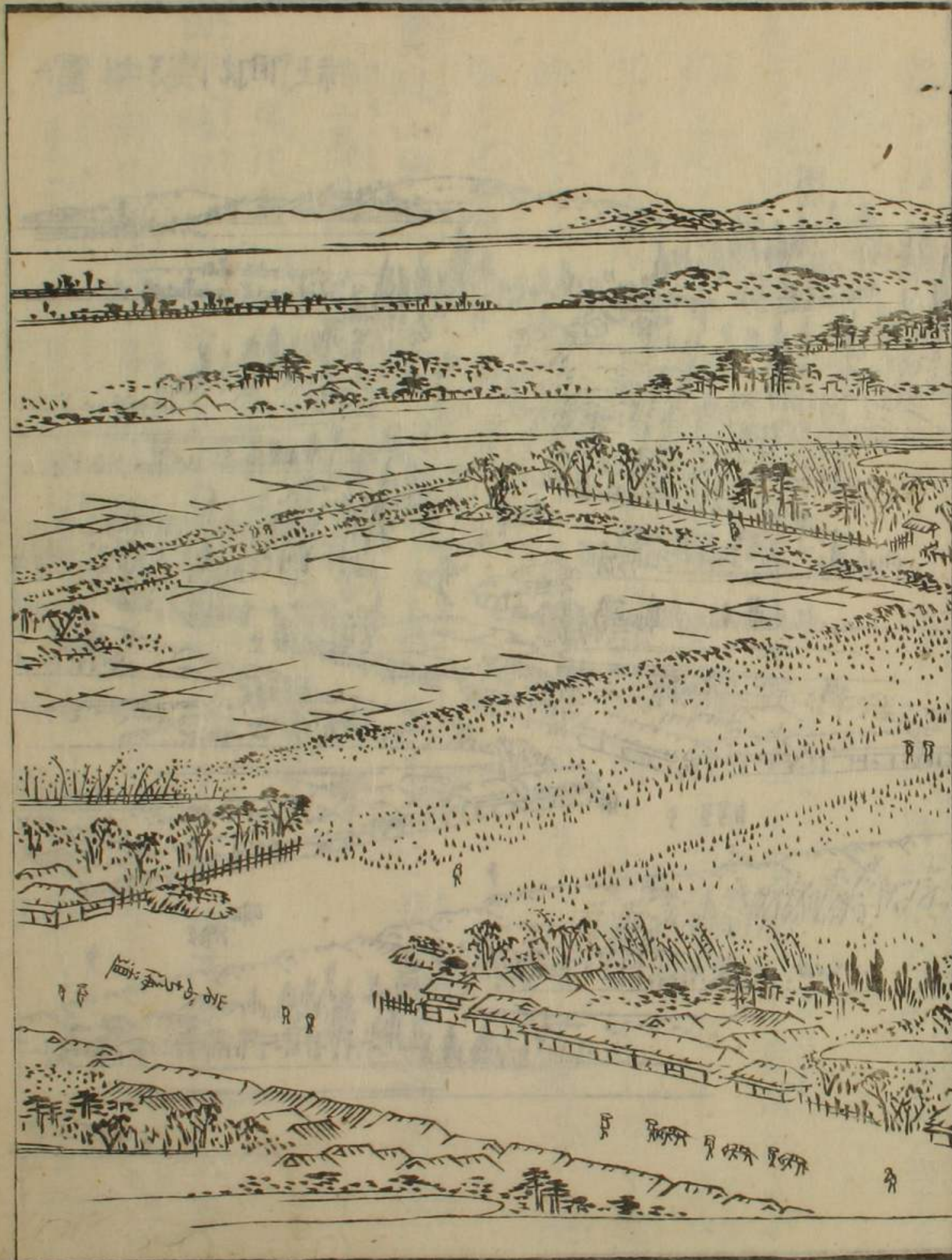
求め索り一は松株の枝ハ大麻のやれるあり公是と拜しハ是霊

夢の應ありとて直ハ其地ハ神明宮と勧請しと云其後多くれ星



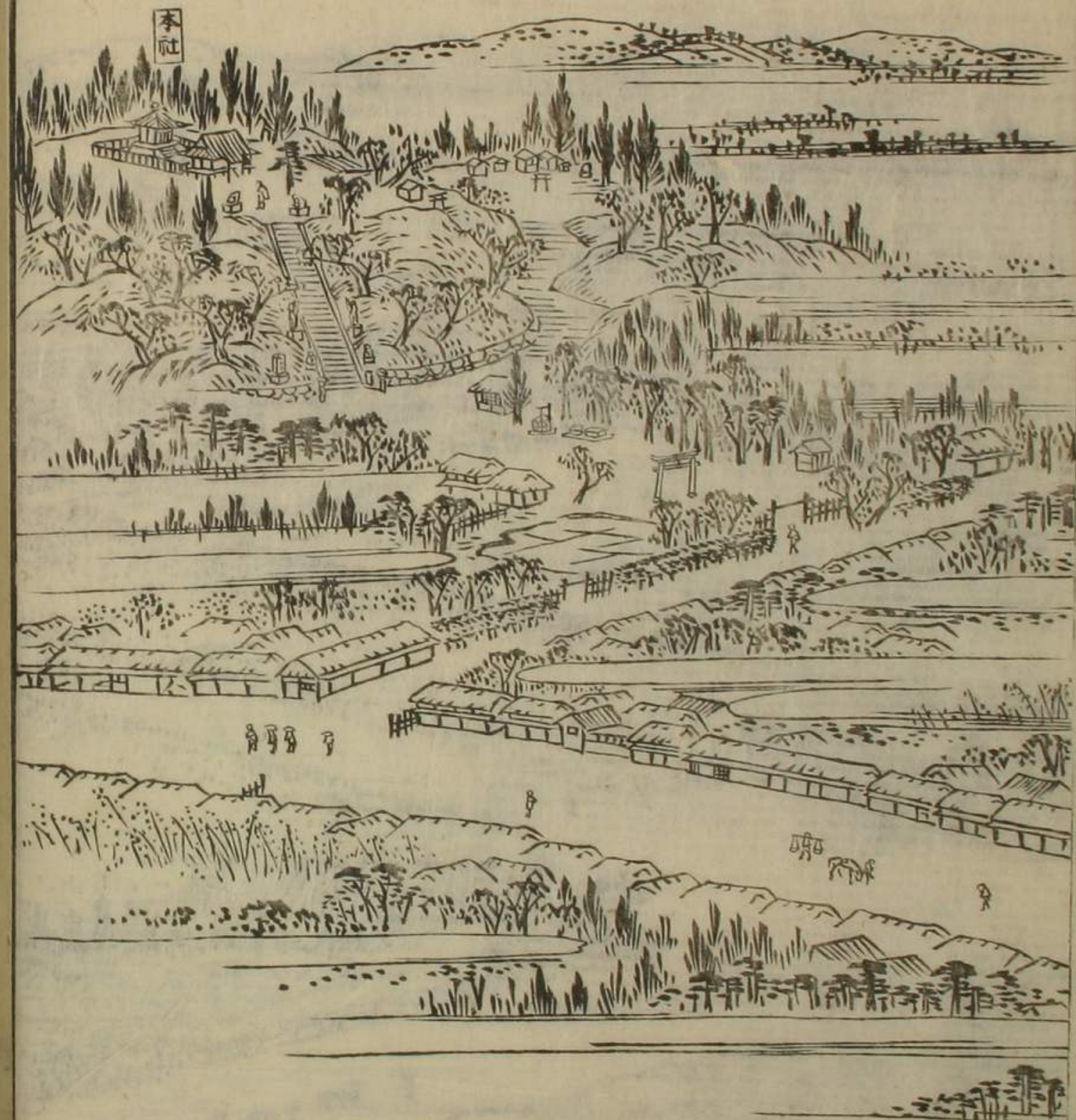








富士浅間社



霜と狂て破壊よとよひ一城慶安の頃塘丹波守利直再興あり  
例祭ハ九月十六日あり

富士浅間社 同取あり祭神本花元耶媛一坐なり往古靈瑞あるふ  
仍て是と鎮坐といへり當社昔ハ奉々加の邸の後園あり一寛永  
年中今の地は迂る毎末六月朔日祭禮まで前夜より詣人多く道  
路は元り此地の産物として麥藁細工の蛇ありひよふ森五文の細  
あんとと盛南く

寶珠山興樂寺 田畑あり真言宗ありて奉尊地藏菩薩ハ  
佛二春日の作元ハ行基大士あり

阿彌陀堂 奉堂の方あり奉尊ハ行基菩薩の作

田畑八幡宮 同西の方あり田畑の鎮守とす相傳ふ文治五年  
頼朝公勸請す昇駒込神明宮と同時の落座なりと云別當真言  
宗東覺寺と号して弘法大師の作の不動尊と奉尊とす元ハ

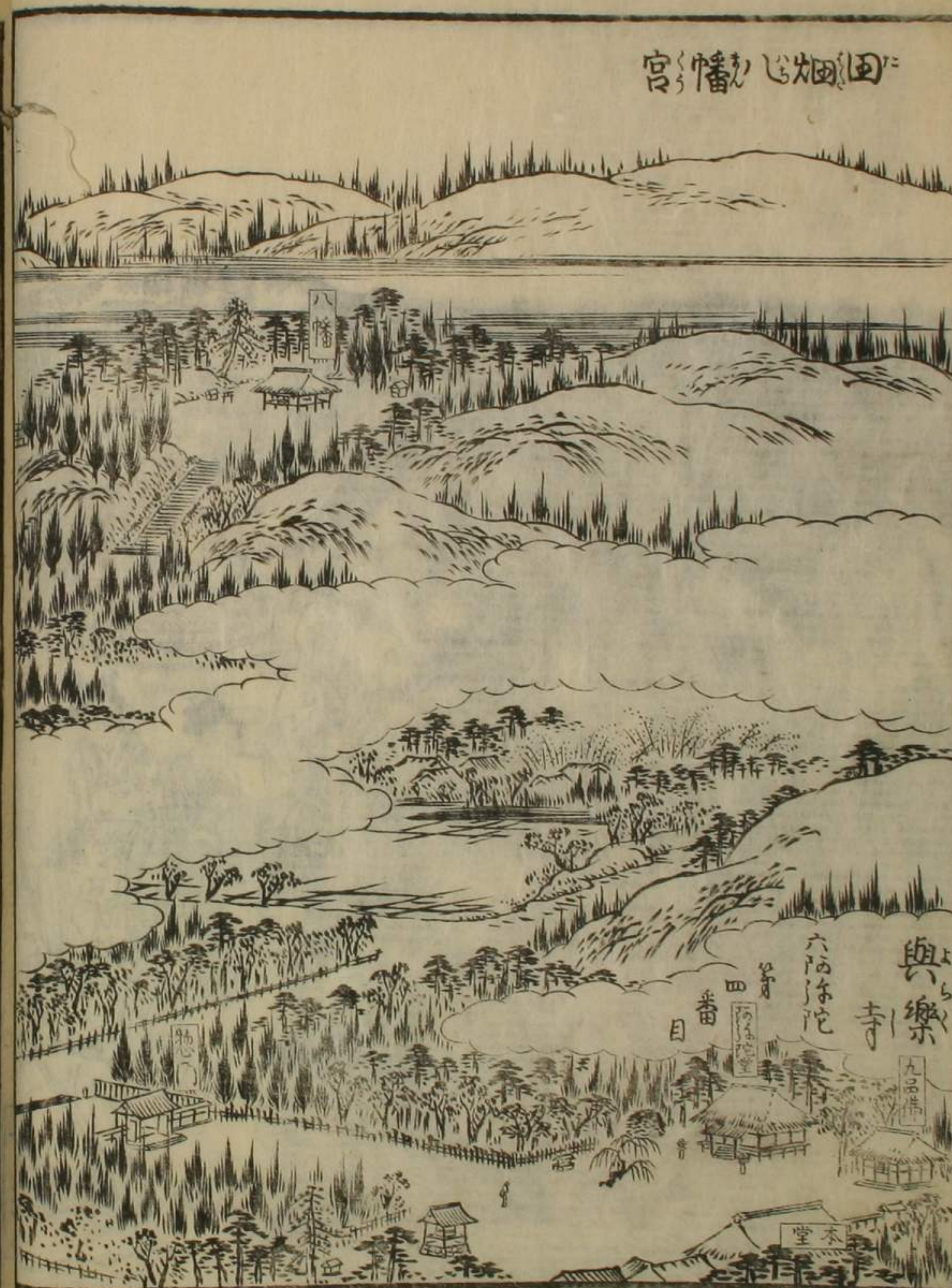
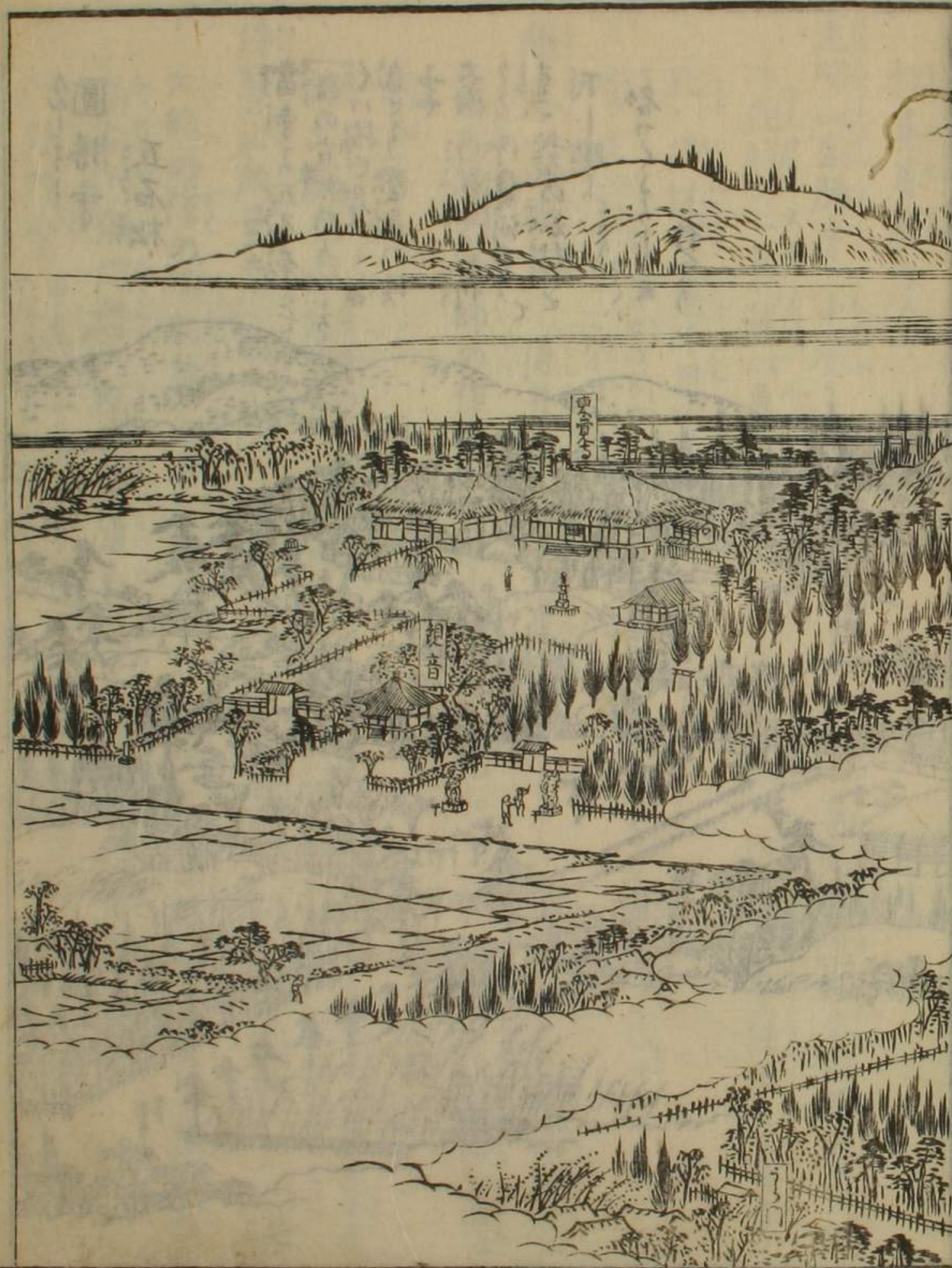


六月朔日  
富士詣

前夜より諸人多く  
甚だ賑ひ此日  
素細の蛇争ひ  
と云ふ五人の細  
と云ふ



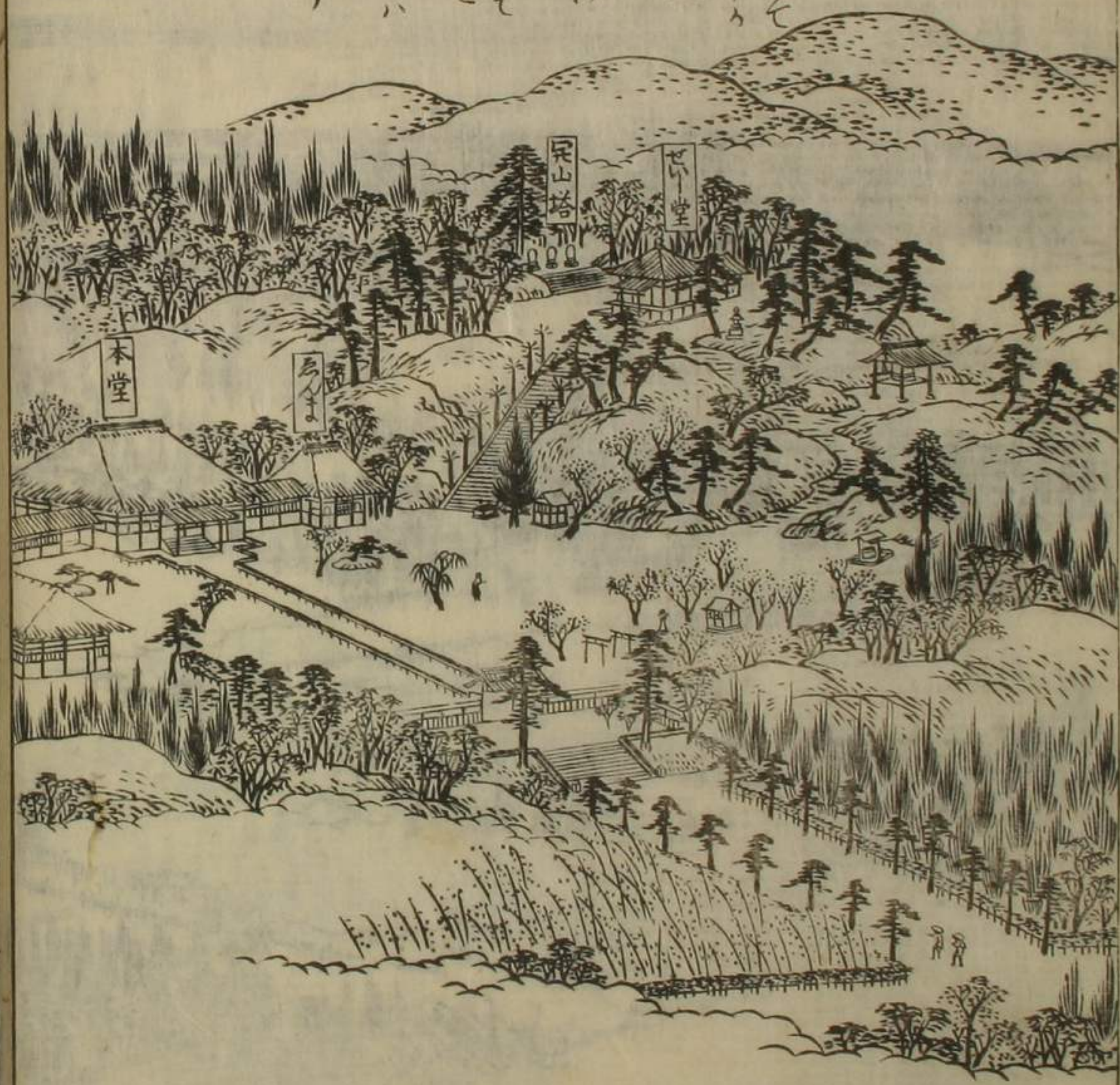






五石松

當寺は五石ありと  
一株の古松ありと  
女ハ枯て各の之を  
敬せり慶長の頃  
也や  
大樹 寺放屋の折  
あり 寺裏洞あり  
妻小 土石の知行を  
下し賜ふより  
各つくより云  
付く



行基菩薩あり

光明山圓勝寺  
中里より降り  
浄土宗より  
奉尊阿彌陀如來ハ慈覺大師

の他さくけり脇士ふ二菩薩ふハ惠心僧都そうつの作さくなり 兜心くいんハ深蓮社せんれん聖法上人しょうぼう當寺たうじ

始ハ御株内竜のはふありーとそ

勢ゼイ至シ堂タウ  
 本堂ホンタウの右ミナミの安ヤスの丘カミの上ウヘあり三尊さんそんの浮陀佛フツトとあはれ候う佛ぶつ工く春日かすひの仇かたあり今

藤林山西福寺  
條井村あり真言宗よして奉尊みハ阿弥陀め來

と毒に徳一六師の作有り當寺ハ狹女の地ありといへども殊勝の梵

剝ハちり

漆井稻荷社  
 本堂の左小あり往古より鎮坐ありて漆井一村の鎮守と云ふ此等漆井  
 字泉あり今ハ水涸て其跡をみふ村と漆井と云ふ此の水よと云ふ

佛寶山無量寺  
西光院と号し同所北の方西原小あり真言宗よりて弘法

大師の作の不動尊と奉尊といふ所ハ行基菩薩あり奉堂小々々

南無阿彌陀佛の額ハ幡隨意院了願和尚の筆あり

阿彌陀堂  
奉堂の本より奉尊の行基菩薩の像  
六阿彌陀牙三番目あり

六阿比陀す三番目あり



無量寺  
六河法陀  
三番目  
そのやう  
七社





神陀山昌林寺

同所ある方より曹洞の禪宗よりて奉尊未本觀世音菩薩ハ定山行基菩薩の作り往古六阿陀彫刻の折々未本を以て作りたりといふ一とむむハ補陀洛壽院と號其後久く荒廢ふと云ふ地は應永年中祥林といふ僧中興なりより昌林寺と號し同十八年鎌倉持氏公の母堂深く是成信一堂宇を修營あり又文明の頃右田道灌二十余丁の畝田を寄附其後大永年同の兵火は罹りて堂塔悉く炎焼す今ハいふ一の所のを存せり

平塚明神社

平塚村ふあり當社縁起云往古八幡太帝義家兄弟奥の山前後十二年の戦終凱陣のころ此地は逗留ありて城主豊島氏某義近ともより鎧一領并小守奉尊十一面觀音今鎌倉寺小安置を賜ふ其後元永年中豊島氏城内清浄の地と擇びて彼鎧を塚に築き收め塚の形高きと云ふを以て平塚と云ふ城の鎮守とす且社代當じて

三連枝の像成安

平塚三所明神と号し八幡太帝義家加茂次帝義綱是義家兄弟の武功と欽宗良武運を祈らん為なりと云別當と

平塚山味安寺といひ安樂院と号し

本阿弥陀如来と安す此像とて小安置せしとそ昔筑紫安樂寺の僧田園修行之砌

白鬚明神社

同所畑の中より桑神ハ猿田彦命よりて豊島氏の勸請より往古ハ平塚の味中ふありしとそ

平塚味跡

平塚明神のありより飛鳥山の辺迄といふ鎌倉大草紙云文明九年四月十三日道灌江戸より出て出豊嶋平右衛門尉

平塚の城と取巻味外と放火して歸り々々小豊島足勘平

左衛門と頼ける同所神井の味練馬の兩味より出攻ありこれ右田道灌上杉形部次補千葉自胤以下江古田沼氏と云ふ馳向ひ合戦して敵ハ豊島平右衛門尉と略として板橋味以下



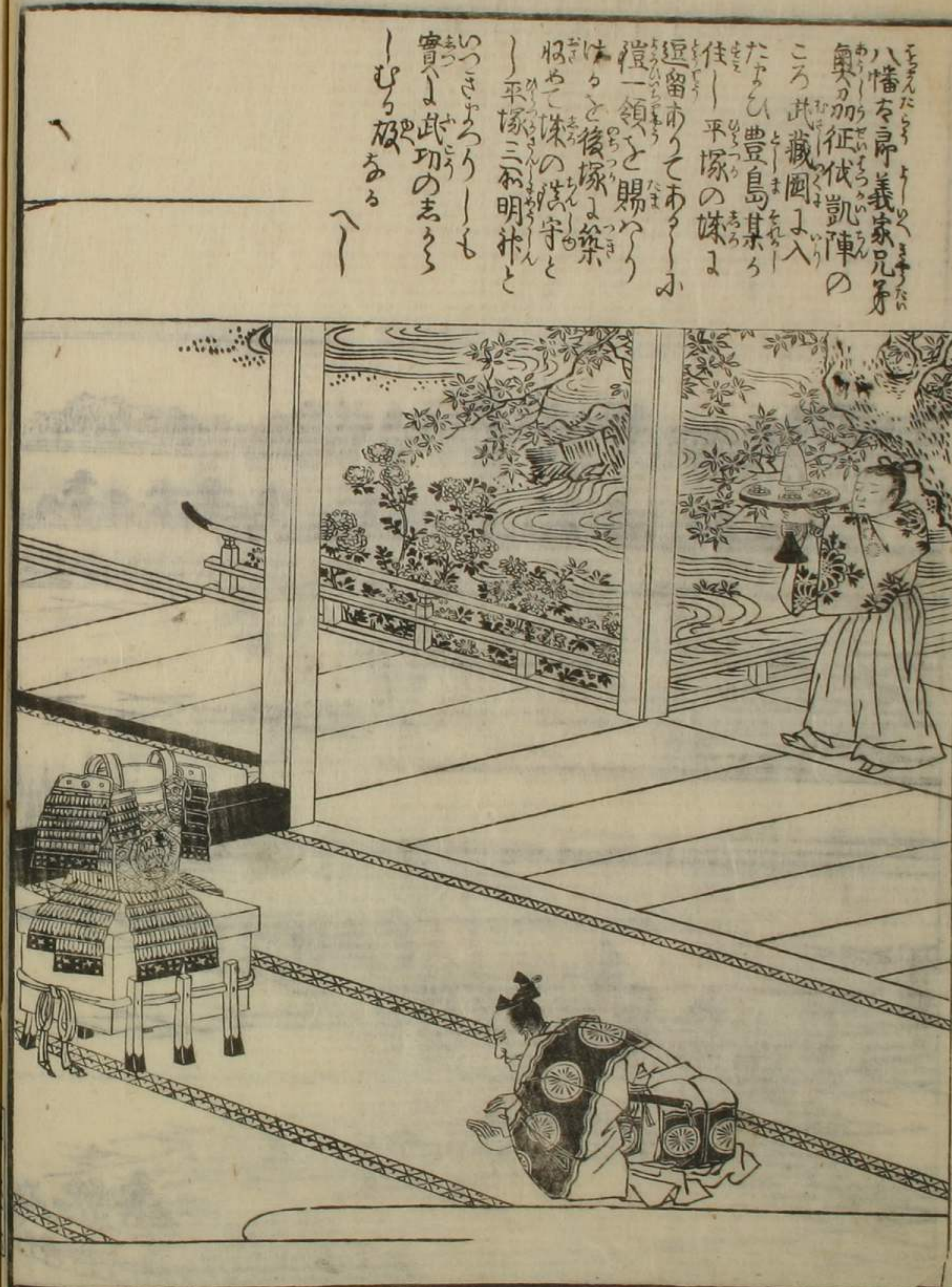
平塚明神社  
 別當  
 鑑塚  
 當株官寺







八幡を尋義家兄弟  
 奥の加征伐凱陣の  
 ころ武藏國へ入  
 たふし豊島某う  
 住し平塚の味よ  
 逗留ありてあふ  
 禮一領と賜わ  
 は々と後塚は衆  
 招ちて味守と  
 平塚三木明林と  
 いふふりも  
 實は武功のまろ  
 しむる極  
 あり

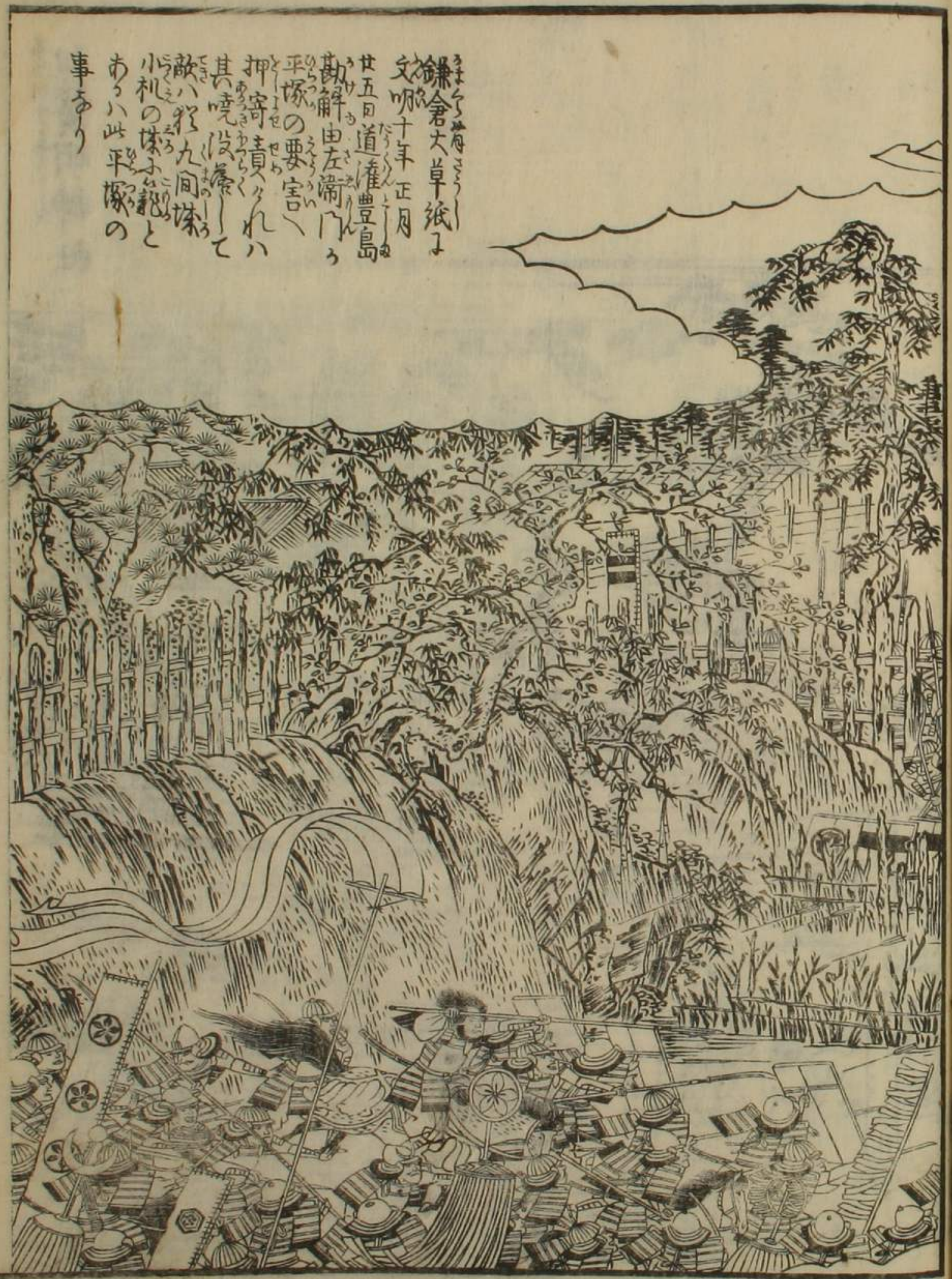




平塚城戦  
ひらつかのしやま



鎌倉大草紙  
文明十年正月  
廿五日道灌豊島  
勘解由左衛門  
平塚の要害  
押寄責はれハ  
其境没落して  
敵ハ程九間殊  
小机の城と  
ありハ此平塚の  
事あり





白鬚明神社



百五拾人討死す 中略 同十年正月廿五日豊島勘解由左衛門平塚の

要害一押寄責たれ其曉没落して敵ハ九回疎小机の疎

龍と云

大追物上覧地 同町道より右の方畑の地を指て云詳小林春齊先生

の作せる大追物記小出より 図てて小略せり

飛鳥山 數萬歩小越たる芝生の丘よりて春花秋草夏涼冬雪

眺あるの勝地あり始元亨年中豊島左衛門飛鳥初と移す

事代主 図て飛鳥山の号あり寛永年中王子権現御造営の時此山

命あり 上にある飛鳥初と遷して権現の社頭鎮座あり其後元文

の頃 台命よりて梯樹數千株と植させらる内ハ遊觀の便と

外ハ萬堯の爲す年と越て花本林とある爾より騷人墨

客へると摘章と尋ね牧童樵夫ハ秣と刈薪をとる殊はこころ

すの頃の梯花燦爛として尋常の觀はありは遊野の古式



春ハ花を以て祀るといふは相合する所の歟  
 又四年の春吟泉前大納言為久々園東下向のわく々鳴島信通命一て此山のまゝを  
 ぬえ々々鳴島とていふ所の花とて人の見せざる若木の枝の疎きうへにさき青も

飛鳥山といふ所の花とて人の見せざる若木の枝の疎きうへにさき青も  
 震の雲よりとてむるをうりふあむ

折枝の久香とてすい飛鳥山花のふれ葉もあられ  
 鳥久

明年再び下向の時侍出京今年ハ花のふれ葉もあられ  
 咲ぬともつけぬ飛鳥山の山標こそこのまゝのまゝなり  
 日

飛鳥山碑銘並序  
 惟尊國之鎮曰熊  
 冊為配祀伊  
 別為鳥配祀伊  
 誌曰熊在神  
 為熊之坐元  
 熊之坐元亨  
 昔祀之如川  
 吹之旗之如  
 其來也尚矣  
 永中有司奉  
 祀而世之祀  
 祠邈今之祠  
 乃宇荒壤故  
 北風新之遂  
 遷飛鳥  
 乃因故北風  
 新之遂遷飛  
 鳥

音無川

蘭亭高惟馨  
 飛鳥山前張  
 春來芳樹自  
 年年載酒看  
 不似桃源使  
 客還





飛鳥山  
あすり  
せん  
全圖  
あすり  
飛鳥橋



此辺料理やあり

此辺料理屋

花と  
いそ  
ま川へ  
あそび  
震  
の  
風雪



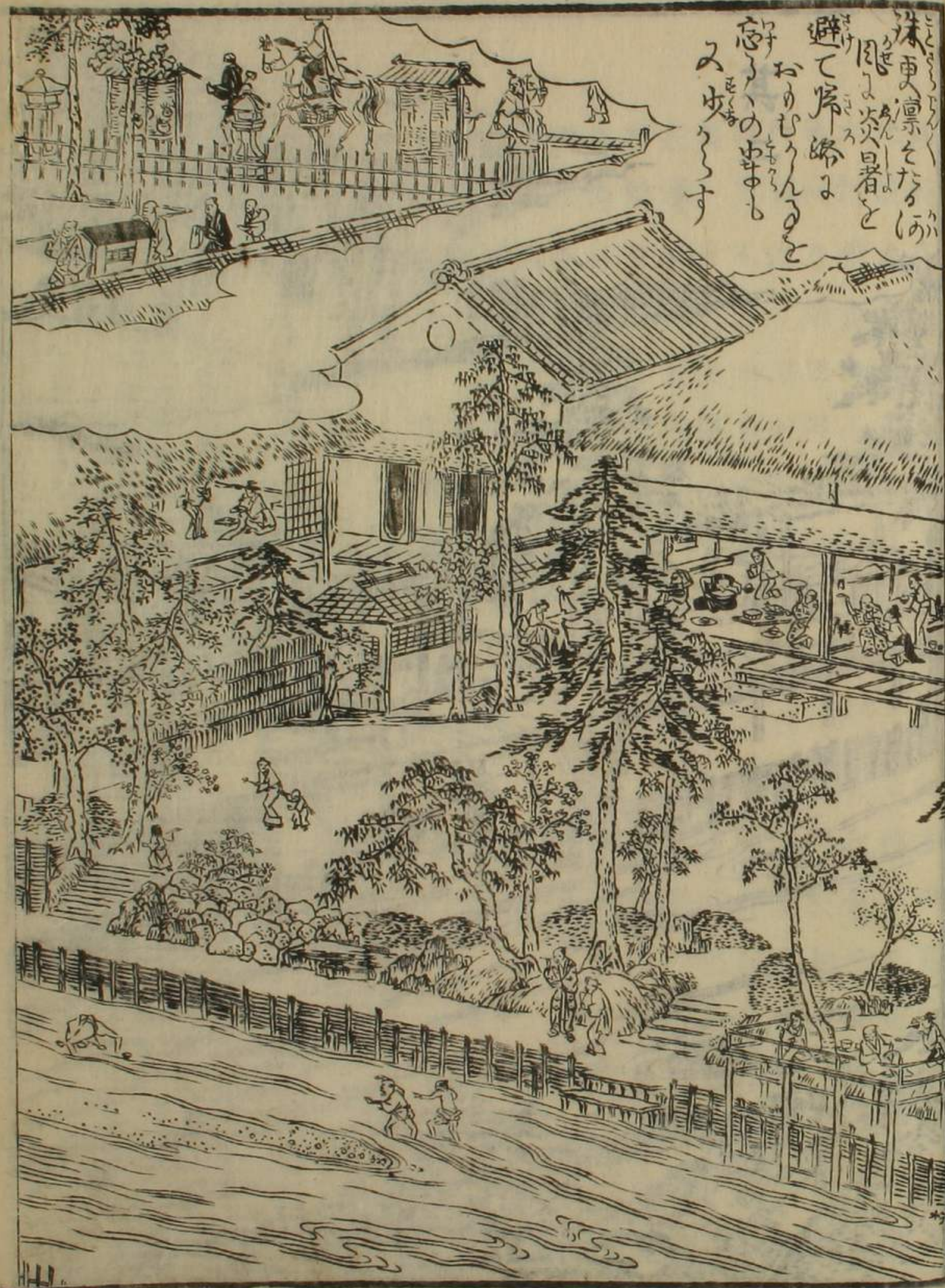




其二







殊更涼なるは  
 避暑と  
 避て席路は  
 おりひうんを  
 忘るの事す  
 又々す



飛鳥橋の  
 ありハ  
 貨食の  
 舗の  
 亭造  
 仕業  
 後亭の  
 ありハ  
 飲潔なる  
 音の  
 下流さうけく  
 生例とかうの  
 都下と離るといふも  
 常は王ふの  
 想ひ流る人こに  
 臨ひて宴と  
 催し沈醉  
 すも  
 多し夏日ハ



其二

奉祠金輪寺住持權大僧都岩衛太  
東都圖書府主事鳴鳳鄉代撰拜書  
加藤忠郁刻

短冊公海舊跡  
今より二十一年ありのむく、此山の麓に住む翁あり、名を勝行といふ。何の



王子権現社 飛鳥山の北の方音を河を隔てあり

奉殿 祭神 伊弉冉尊 在速玉男命 三神鎮座

社記曰 若一王子社ハ紀伊國熊野権現と勧請ハ後醍醐天皇の御宇

元亨年中豊島何々の主とや新小祠宇を建て崇ける同霜

ぬり案月深して朝の霧ハ香を林々とあや〜夜の月ハ燈を

挑み似せり霊神ハ人の敬よりて其威をま〜境致ハ霊神の徳

ふよりて其名を弘くはら〜此神の奉を尋れハ伊弉諾伊弉冉

の尊と申ハ二柱のみこと國土をうみ萬の物とやなり其廣大の功

徳既ハ成て後伊弉冉尊神退ま〜これハ紀列熊野の有馬村

ハおはちまのふ熊野大神是なり此神と祭るふ春ハ花とて

多り鼓うち笛吹旗立て調練て祭る白河院の御製ハ咲白ハ

花のけ〜きと見えふ〜神の心をふまら〜とよみぬ〜ハ

花さつめの事ある〜此神の御子と熊野早玉男とやう〜其第二

王子権現社

山うそあ







暖みほふ

それの

ききと

ふんふふ

神の

ふと

ふんふ

ふと

白河院御製







花慎の  
 祭礼ハ  
 今  
 たり  
 ぬるまを  
 夜せんう  
 古  
 模  
 加ふ



第一番 中門口  
 第二番 道行腰作  
 第三番 行違腰作  
 第四番 脊摺腰作  
 第五番 中居腰作  
 第六番 三拍子腰作  
 第七番 點禮腰作  
 第八番 捻二度  
 第九番 中立腰作  
 第十番 搗笹腰作  
 第十一番 作流  
 第十二番 子魔歸



祭禮

毎歳七月十三日神前  
 祭禮  
 拍板あり此日同  
 左の如く  
 うける番身と掲る









大般若經卷第三百四十九 今卷と侍るものと余の室暦六年上の陽屋村正法寺

奉施入武別豐島郡能所推現御寶前文保二年戊午初秋

大施主在傍門尉平行泰教白とあり  
右證文二通 可附の證文あり 千鳥屋風一雙 野古法眼元信の筆あり

蘆屋釜一口 井山余氏直の奉納あり

祭禮 例年七月十三日ふして十貳番の拍板あり 此日王の神の童み

て警固に祭終て後泰僧の貴姓彼序と携つて飢り火災盜難と除くの守護とく是

も古よりの俗とて之をえ一其か一十余度の祭に連綿として國安寧五穀豐

饒の禱急慢あり

卒地堂 李社の虎あり除陀藥師千手 卷一王の宮 卒社の右ふあり新宮天照

飛鳥祠 同前ふは並に神ハ奉代主の令たり 元亨年中豐島左邊門ありりの

遷坐 康家清光社 同前社の左ふあり是豐島左邊康家同權頭清光父の

世王宮

仁和寺覺深法親王真蹟

當社ハすて紀列能野山の地勢と寫し前ふ音の川の流とらけて

風色真あり花の時ハ花とめて祀といふ神ふ小園や社頭

多く梯樹と植て春の頃ハ境内殊々觀賞ありあり亦冬月雪の眺

金も代小勝あり

王子稻荷社 同北の方あり往古ハ岸稻荷と号しや今當社より出すと

ころの牛養宝印ふあり記せり

奉殿 倉稻魂命 聖觀世音 藥師如來 奉宮 十一面觀世音

王子權現縁起曰われの世ふありん此社の傍に稻荷明神と云

いといはれハ毎年晦晦の夜諸方の命婦此社に集り來ふ其ともせり

火の連りつけら奉をくそくの松明と並ふる如く數解の螢と放

花しむふふ似そり其道野山を通ひ河辺をかゝる不同と見て明年の

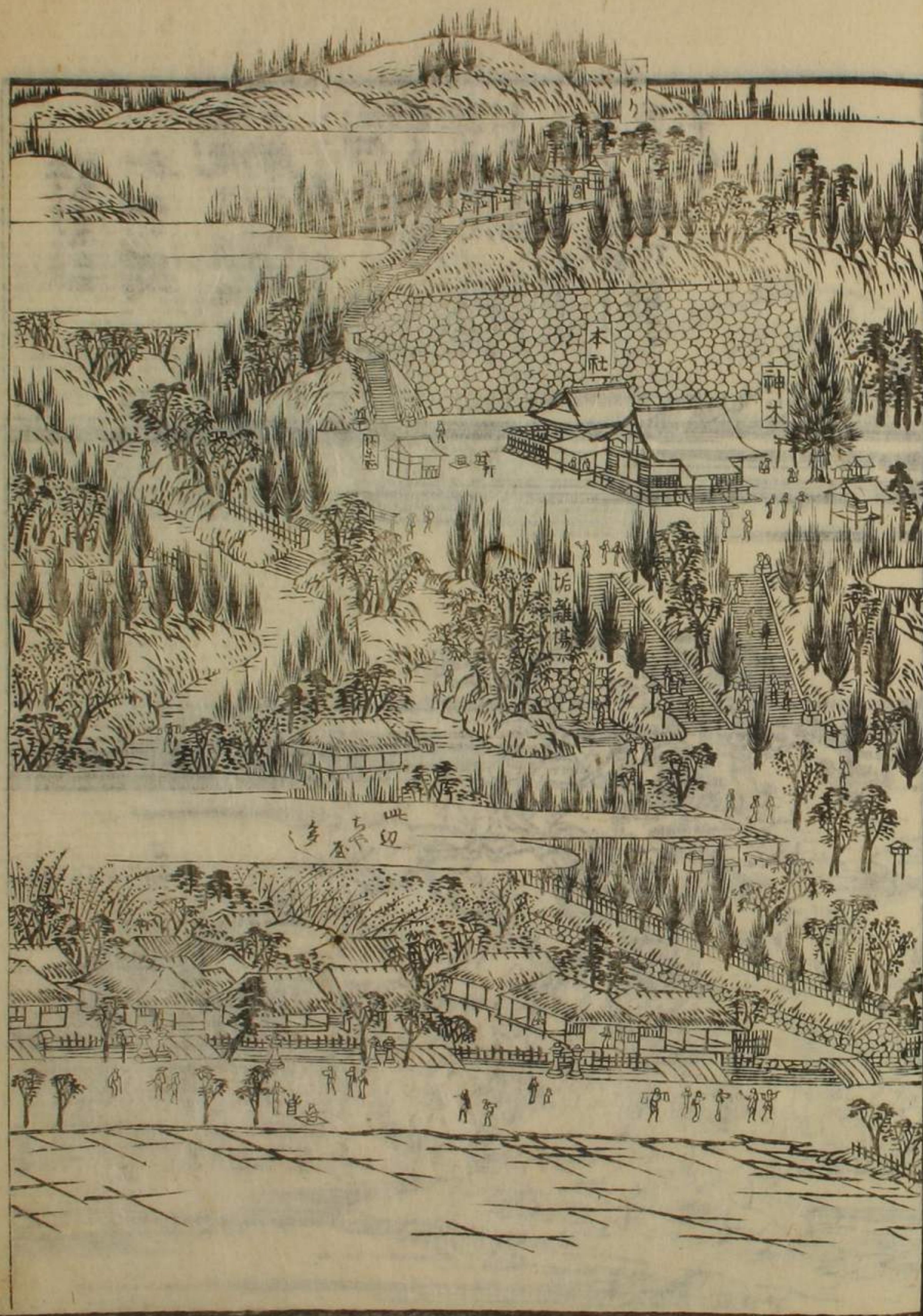
豊凶を知るとば命婦の夕の白と九の尾ありハ奇瑞のりのありと

右に書小ありとあひ下畧

因云今の世三狐神の名に附令して伊奈利と白狐とすらりハ大ありあり又

狐と伊奈利の使者と一又と云命婦と云ハ或書に云後小松帝の明徳年中







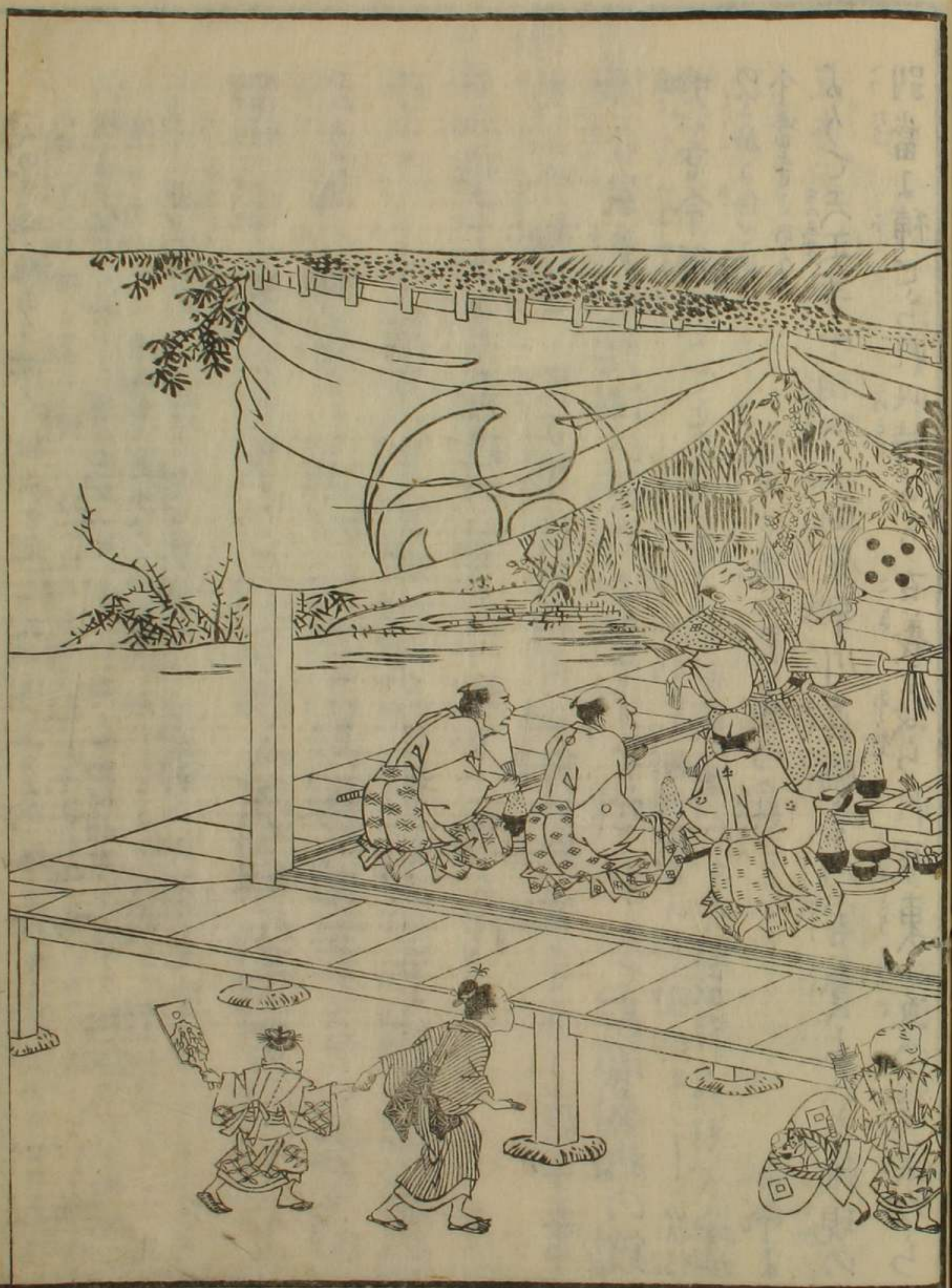
衣袋束帛  
 衣裳櫃  
 毎歳十二月晦日の  
 夜諸方の狐影しく  
 こみ集り来るる  
 恒例として今も  
 然り其燈せし火  
 影ふ依て土民明  
 新の豊凶をト  
 と此事雪月  
 ありやうと曉り  
 何とて時刻定る  
 事なり





十八講

毎歳正月十七日  
 王子村農家  
 是を行ふ當日  
 権殿の別當金輪  
 寺の住持と  
 資資半小  
 當番の百姓村  
 板金魚盤の  
 三品と携へて  
 のれをよいやさの  
 を聲とあて  
 食とをくむ  
 是此の舊  
 例として  
 十八講といふ  
 神領十八箇  
 村あり一頃の  
 旧村と





人の老命歸あり深く福を信し毎日清てける命歸う飼ける所あり必々桑陰の時ハまゝ社檀は来り待しなほに社人も福の来ると見て命歸のやうに清てける命歸も年老世と退りて後ハ檀と養ふ者も清て伊奈利と至り社檀の命歸命歸と各つけ呼ばれ果物とありて年経て死する人清て奉社の命歸と社と建て祀りしより此せり是檀と伊奈利の使者とせしよりとこるかふへ

當社ハ延下都下とをあるといふとも常小諸人絶月毎の午の日ハ殊更諸人群衆す二月の初午より其賑ひ言もさるあり飛鳥山のあよりより旗亭貨食舗或ハ丘に對し或ハ水に臨むて軒端をつらねより實は此地の鯨系花ハ都下はあつらひ

禪夷山金輪寺 王は権現同稻荷兩社の別當寺あり康平年中源義家東征凱陣の頃新に當寺と管しとそ其頃奉納の鎧兜等今猶傳ててあり  
治康四年頼朝稲荷の宮へ奉納ありといひは義家の腹巻といひは羅乃等ハえさう以後権現の宝庫は併せ納るより一もて當寺ハ新義の真言宗あり  
今當寺よりあり

よりて天正年中相列小田原早川真福寺の宿養上人と権現の別當は補せられ此時より古義は改られ寧東一派の棟梁たら

五香湯 王は権現起日ある時説宣して五香の藥を授られより其藥と服

音無河 王は権現の麓と流る 模ててハ名つるを奉名と石神井川といふ  
武蔵石神井村三寶寺の池 下流ハ荒川といふ 号して河の號ハあり

松橋辨財天社 王は権現の西の方三四丁をよりあり奉尊ハ弘法大師の作よりて昂大師の勸請より此地ハ石神井河の流し臨み自然

の山水あり兩岸高く楊柳の二樹枝を交へ春秋ともいふあるあるの一勝地あり源平盛衰記ハ治康四年十月頼朝卿隅田河とうち

渡り武藏國豊島の上麓野河松橋といふ処ハ陣ととるとあるハ此地の事あり 頼朝奉納のたか一振

龍河山金剛寺 松橋院と号し 弘法大師の寢基よりて奉尊



まつたけの  
 松橋辨財天宮  
 石神井川





不動龍

泉流龍とも云

正受院の奉堂の

後松滝

松

松十

飛泉

滝

常

此境

茶樹

樹

白

青

人

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松

松





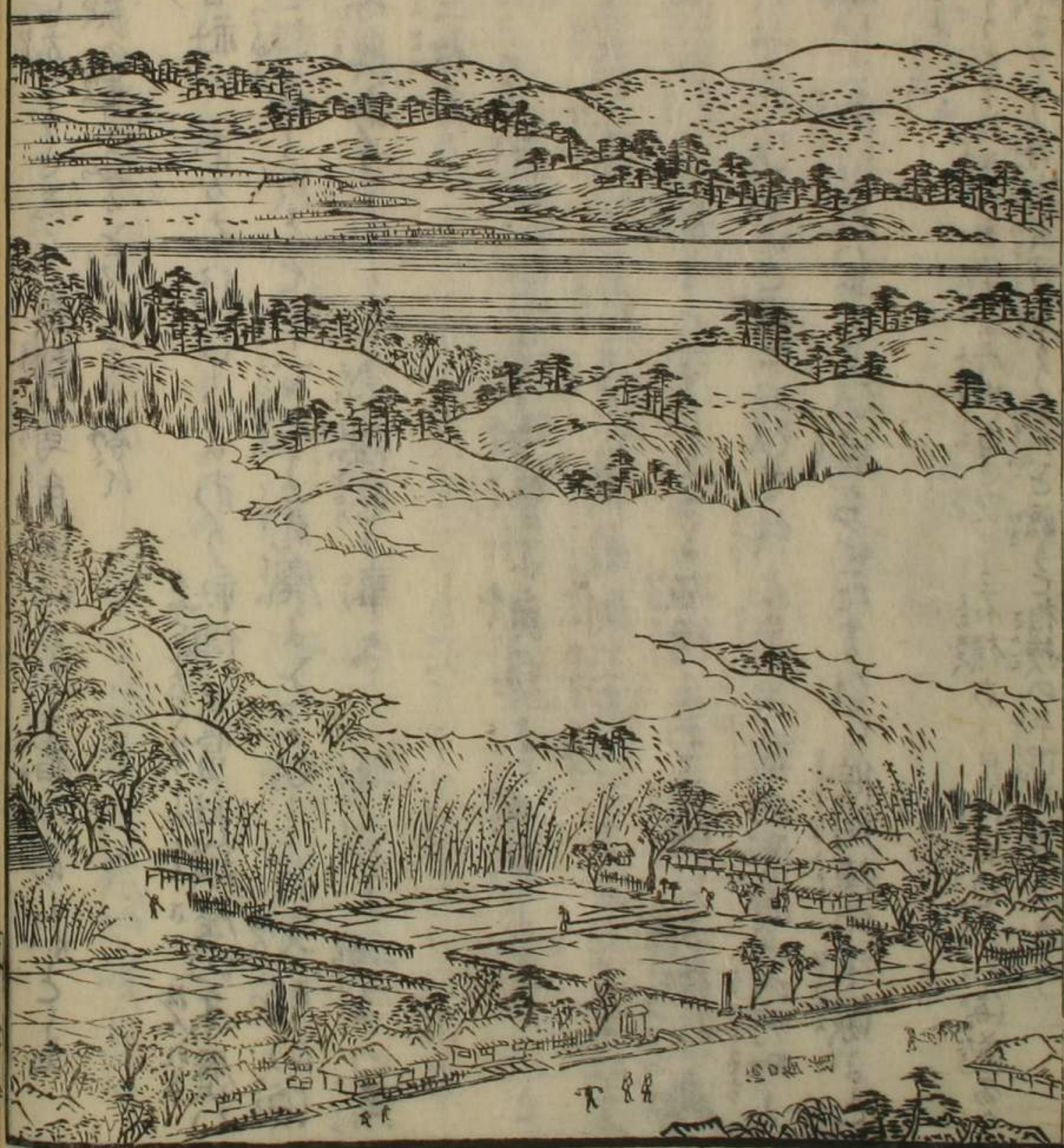






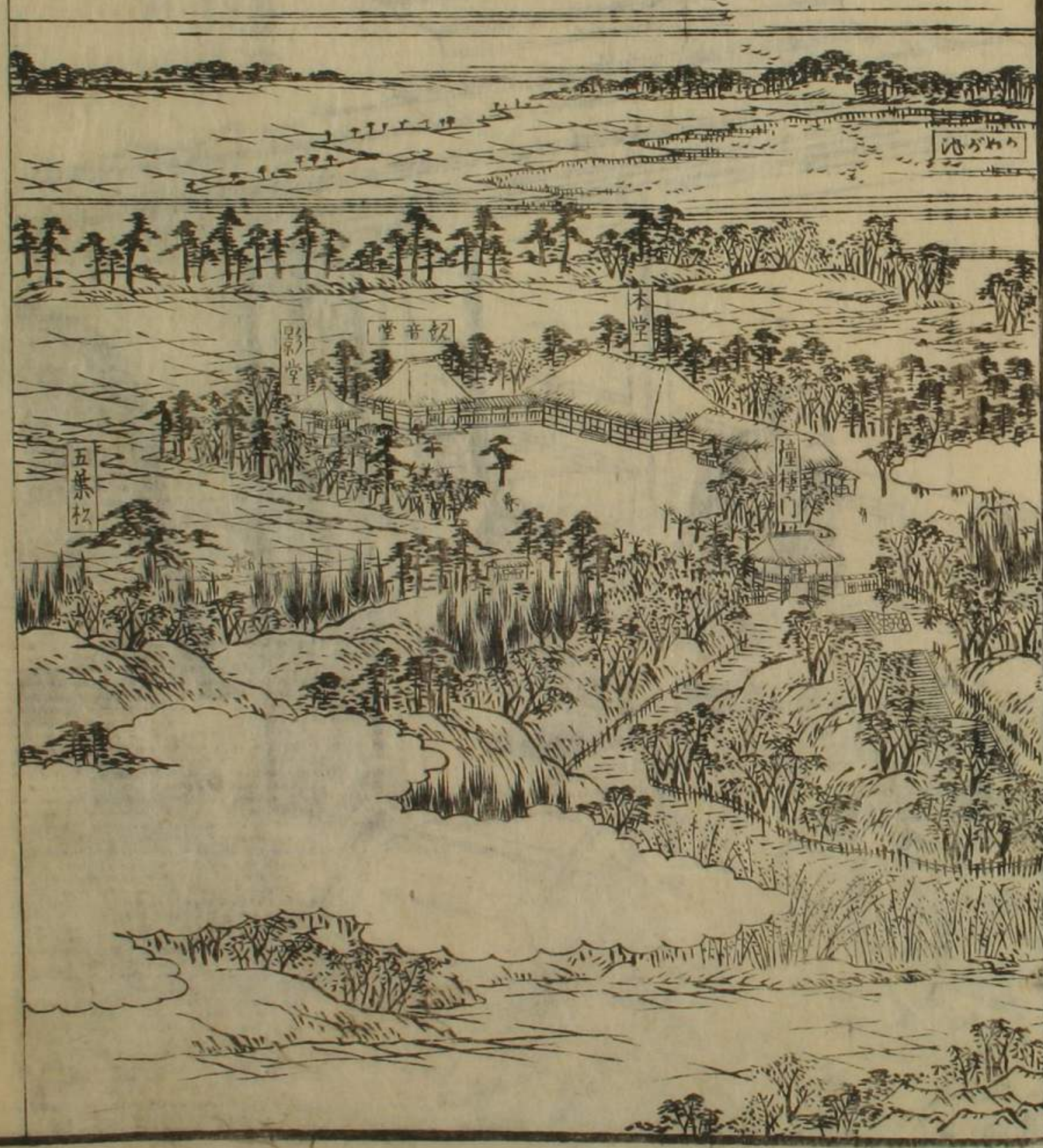


静勝寺  
 龜ヶ池  
 五葉松



懸雲燈  
 圓通閣  
 灌公祠  
 梵鯨樓  
 古城砦  
 樓鶴壕  
 靈龜池  
 蟠松岡

衣當寺の八勝  
 奇の杭波石正  
 倚の詩あり是  
 とる







富士の  
根  
と  
新瑞  
と  
持資



永庵  
ハ  
松原  
つゝ  
海  
ち  
く  
右田持資  
倉雪亭より  
士奉とを  
松哥と旅す



赤羽山八幡宮



川に善光寺

川に村渡場の北よりあり天衣宗よりて平等山阿弥陀院

と号し奉堂より阿弥陀院來觀音執至一光三尊と安す寺傳曰  
 往古定尊といふゆ門あり法華經と誦すれ外代を建久五年  
 の夏一時睡眠の中は信の善光寺來の靈告と得る事あつて速に  
 かここより正しく來の聖容と拜し示現は依て十方を勧む  
 財施と集金銅と以て中尊阿弥陀佛と鑄奉る時は建久六年  
 己卯五月十五日あり  
 佛の胸中より三寸五分の水晶の宝塔とこめ  
 又脇士觀音執至の二尊と鑄奉る終に堂宇を建立して善光寺と  
 號し當佛の頂に摩訶とともは寢眼きたりあり當寺縁起小詳あり  
 二王門の額に平等山とあり八黄壁木庵の筆あり

豊島驛

今豊島村と号する地其旧跡よりて往古此郡の府あり

一と見え續日本記は武藏國衆瀬  
 今其所と云ふ  
 豊島の二駅の事と  
 記せり又松名抄は武藏國豊島郡とあり中驛家と記せり





川口  
善光寺







河  
鍋  
匠

其家に傳へて云  
天命國家の後胤  
あつて  
人皇九十七代光明  
院の御宇に應  
年同門の丹南  
より此所に移  
住す其  
子孫今猶こに  
榮へて  
連綿  
とす



鍋屋の井  
せよ各  
おろ

此地ありん歟 或人云豊島系譜は、何院宇を島々義近と云へん此地ありて  
大宮三郎盛貞豊島又を三郎時光と武藏國豊島を食名と相傳ゆるハ大宮の有忠ウ四一羊と打  
より事起るとあれハ、鶴氏代々々々住せしと云へなり又歸倉大草紙ハ文明九年豊島斯解由  
尤爾ハ系譜經合第平右衛門義明平塚の傑ありて道灌といとと戦ひ終は討死し明十年  
正月迄来すとあれハ文明の頃ハ豊島村の地あり住せしと云へなり永保年中北条多限悋ハ  
彼等新大島知行の中ハ、ハハ豊島の地名と云ふ按ハ永録の頃ハを田新ハ島知行  
せしと云へなり

豐島ありて行基菩薩の元基あり奉尊

豐島權頭清光建左  
あり七佛の隨そあり  
當寺ハ六阿弥陀尊壹番目

して是これを元本もとほんの如ごと來きたと云い縁起えんぎあれとも未詳みじやうあらば四卷目しゑんめ小石川こいしがわ

光圓寺の条下と照一合せて見ざるへ

二王ふたうよりくわんも三孤山さんこさんの額ハ  
三國筆さんこくひつ海堂かいどうの筆ひつあり

梶原堀内豊嶋川の河曲堤の牽あり  
昔八寺院もありくわと  
そありと洪多の時川矢込て

亡<sup>な</sup>  
亡<sup>な</sup>  
とそ  
此塚<sup>このつか</sup>  
ハ左内美濃守入道貞正<sup>さうないのみののかみいりだうしんせい</sup>  
法名道安云又三樂齊と号す  
の次男梶原源光政景の

墳墓あり  
佐原上總介後灰養子よしとせ  
始嫌信は属し後佐竹の幕下なり  
 享保の頃追ハ石碑石櫃ありーう

洪水の時豊島川へ萌れ込けりとして今ハ小菰の中ハ一株の麦のみ存

永禄二年小糸が分限帳より田新の所知行の内  
 梶原塚肉を以て流に分の地を加へたり

又平塚明神の北に鳥山



西福寺  
 六河は陀  
 茅壹番  
 梶原塚



六

阿弥陀  
 かけて  
 あく  
 らむ  
 石とく  
 三々  
 其角





梶原塚



の麓は今梶原屋鋪跡といふ所あり按ずるは是も政景の弟  
宅の地あらん

殿酉王山清光寺

豊島村にあり真言宗也

豊嶋権頭清光の元

基あり奉尊不動明王ハ清光建立あり七佛の隨あり清光ハ頼朝

の叔父也一當寺ハ則清光舊館の地ありと云

釋迦堂

豊島

同所ハ古松一株あり士民是と

豊島を帝康家岡権頭清光墳墓

同所ハ古松一株あり士民是と

稱して豊嶋の大松といふ

紀明神社

清光寺より三丁を隔てあり祭神ハ五十猛命大

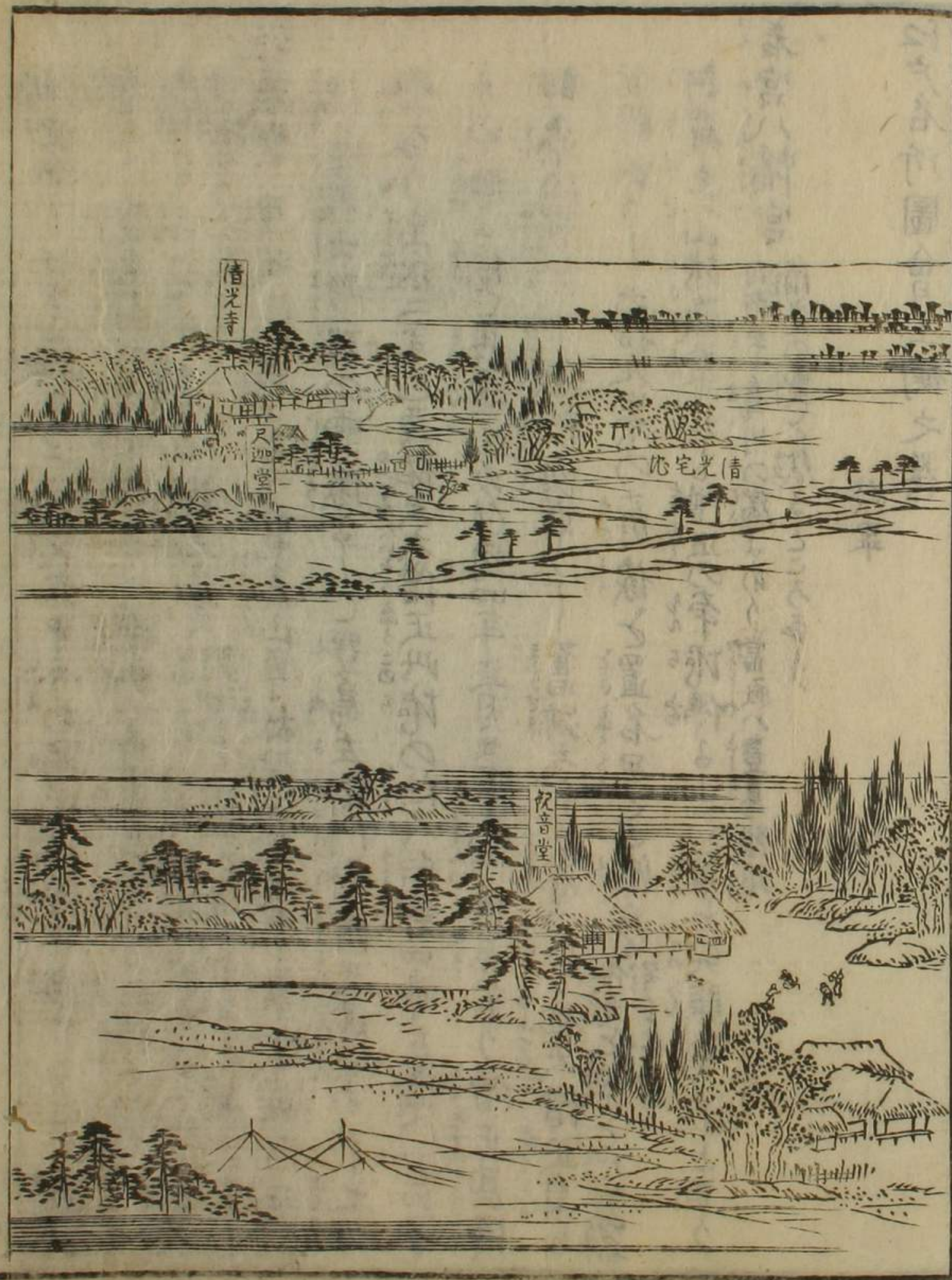
屋津姫命

日本紀神代卷一書曰素戔嗚尊之子號曰五十猛

命妹大屋津姫命次執津姫命凡此三神亦能分布

社傳云往古豊島氏某王の権現と勧請せし頃彼地の神社







鎮坐ありけるは、故あつて天文年中今の地ふ宮居と移せしと當社ハ  
 昔より豊島村の産土神として祭例ハ毎歲九月十八日執行（社司鈴木氏の  
 紀の初よりある彼地ハ藤司の觀音堂 因野あり奉尊ハ尾首野 摩訶天の御ありといひ此地も  
 後裔ありといひ）  
 地蔵堂 豊嶋川の端あり龜島山専称院と号し奉尊地蔵菩薩ハ  
 行基大士彫刻の靈像として豊島左衛門尉清光建立あり七佛  
 の一あり宝永二年乙酉祐天大僧正此地の住人臼倉四郎左衛門といひ  
 りの助は依て再建しつひ同年正月廿七日入佛供養あり僧正其頃  
 群衆の男女十念授與あり舊跡あり又堂内は祐天僧正自ら  
 冥眼あり一六拾九歳の壽像と置名号と添らる（俗是と稱して地蔵の名  
 号と云ふ）  
 訶羅多山地蔵尊是も僧正の奉地佛として自ら冥眼ありとあり  
 若宮八幡宮 因野あり島川の端あり當社の豊島権頭  
 清光の靈と傳ふところあり

終畢

江戸名所圖會玉衡之卷



